

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 解答番号は〔二〕の 1 から 14 までとする。

先だって、叔父が古い8ミリを見せてくれた。叔父の家と私の家の二家族が、叔父の車で鎌倉にドライブに行った記録である。

いま見ると車は黒塗りの大型のセダンで、どうやら36年型のビュイックらしい。要するに太平洋戦争のはじまる前、まだそんな車がえらそうに走りまわっていた時代のフィルムである。でも、画面はセンセイで、色褪せているわけでもない。家が区画整理の対象になって、古い荷物をひっくりかえしているうちに叔父がみつけたものらしいが、それにしても、よく残っているのだと感心した。

私は小学校の三年生くらいだったが、そのドライブについては比較的よく憶えている。①幼いころから私は鏡と写真が大きらいで、いちばん厭なのが鏡の中の自分とじつと対面していなければならない散髪屋での時間だった。はつきりいえば——つくづくつまらない性質だとは思いうが——私は自分が大きらいなのだ。もう少し自分が自分の理想に近い自分であってくれればいいと思う。で、自分を見てはガッカリする。だから自分がきらいになる。まったくバカげたことだが、きっと私はいささかゴウマンすぎるのであり、すべては自己愛の裏返しにすぎないのだろうとも思う。が、いまだにこの傾向はつづいていて、私はめったに鏡を見ないし、写真を撮されることは苦痛である。じつさい自分でも情なくなるほどだが、でも、これは私の「わかつちやいるけど」やめられない弱さの一つである、と近頃では覚悟している。

だからその日、叔父の8ミリの目が私を狙いつづけたことへの恐怖に近い嫌悪は、いまもはっきりと記憶している。私は彼に石をぶつけ、彼のうしろへと廻り、べつに私一人が撮られているわけでもないのに必死に逃げまわって、叔父はいくどもタシを発し、母や叔母に私は叱られつづけた。

八幡宮や、大仏、岩の多い海岸、それに名は忘れたがどこかの寺への参道のような、両側に木の繁った薄暗いゆるい石段の道があつて、鹿の脊紋のような木洩れ日の斑点がそこに動いていた。私はすっかり意識して写真機をもつ叔父にばかり注意

し、彼が^①ちよつとでも写真機を持ち直すたび、母や他の人びとのかけにかくれたり、駈けだして画面の範囲の外に出たり叔父のうしろに行ったり、どうしても逃れられぬときはしかめっ面をし、両手を顔の前で振ったりした。キトは^①わざと助手席、——運転する叔父の横にすわり、ここなら知らないうちに撮される心配はない、と思っていた。その点、私は意識過剰のいささかコッケイな、コザかしい子供だった。

その記憶はたしかである。もし必要なら、私は^⑦カメラを避けた私の動作につき、もつとくわしく説明したっていい。それがそのときのことである証拠のため、その日われわれが行った場所の風景を、もつと精密に具体的に、あれこれと指摘することもできる。

風景や天候の記憶は正確だった。それはフィルム回転とともに明らかになった。^②……しかし、私は茫然としていた。画面には、信じられぬような「私」が動いていた。

——^①彼は、わざわざカメラの前に顔を突き出してはニヤニヤする。充分に撮されていることを承知したポーズで海に石をほうり、振りかえつて得意気に笑いかける。^④例の参道のような道では、人びとの先頭に立つてすたすたと歩いてくる。大仏の前では、珍妙な顔をつくり、大仏の真似をしてすましている。ほがらかにカメラに何かをいう。

十分間ほどの映写がつづくあいだ、私は、はじめに「へえ……」と叫んだきり、声が出せなかった。

私は、あんなに自分の外観に無邪気な自信をもち、いきいきと明るく動きまわっている自分なんて、夢のなかですら見たことがなかった。ヤケのヤンパチになって演技してみせていたのだろうか？ でも、ひとつも逃げたりかくれたりせず、顔を顔の前で振るシーンもない。要するに、私は撮られるのを愉しんでいるとしか見えない。カメラの目が

10

それをとらえていた。

「……逃げまわんなかったのかなあ、ぼくは」^⑤呆れて、私はいった。「ぼくはそう憶えているんですけどねえ」
「逃げる？ どうして？」

すっかり頭の地肌がむきだしになった叔父がいった。「それより、あんたは悪戯^{いたずら}ばかりしてたぜ。わざと私にしゃべりかけ

て、笑わせて失敗させようとしたり、うしろから車がくるといったり、駈けてきて腕にぶら下がったり……」

「そうよ」と、これも髪にだいたい白いものが目立ってきた叔母がいった。「それで、お母さんに叱られどおしだったじゃない?」

では、それがせめてもの当時の私の、「写されること」への抵抗だったのだろうか? それにしても、フィルムの中の私はなんと朗らかに動きまわっていたことだろう。私は子供が「無邪気」だなんてけっして思わないが、しかし映された私は、叔父の目にさえ「無邪気」な子供としか見えない。あの表情、あの態度からは、どうしたってカメラの目への嫌悪や恐怖は想像できないのだ。

私は、だが、写真や鏡で自分を見るときの苦痛が、小学校へ入る前から私にあったことは確かなのだ、と思った。「ちょっと温和おとなしくして下さい」と、出来たばかりの五反田の白木屋の散髪屋（あれは五階だったろうか?）でいわれた記憶がある。いやがって横を向こうとして右の眉を半分剃り落されたときだ。あれは、完全に小学校に上る前の自分である。

同じその私が、しかもそのドライブの折のカメラへの嫌悪や恐怖をいまだにありありと憶えているというのに、だがフィルムには、むしろ写されるのを愉しんでいるみたいな私しかないということ、いかにも無邪気で朗らかな私しかないということ、これはいったいどういうことだろうか。どっちかがまちがっているのか。……フィルムで見るかぎり、あの私がカメラの目を嫌悪したり、怖れたりしていた筈はずはないのだ。

では、間違っているのは私の記憶なのだろうか。

すっかり自信をソウシツして、私は、幼年時代というやつは、一つの記憶、一つの神話ミソナなのだという気がした。おそらく、それは事実とは何の関係ももたない。ひとが過去と呼ぶもの、たいていの場合、それは彼の自分勝手な現在の投影なのにはすぎない。

そんなあたりまえなことと、或る人はいいい、或る人は私のこの記憶のインチキさ、はなはだしく勝手なこの錯覚を嚙わうだろう。が、私はすべての人間の「自分」とは、多かれ少かれこのようなそれぞれの手で捏ねねあげられた幻影、伝説、事実には一

応無関係な、それぞれの自分についての「神話」ではないのか、と考えたのだ。つまり、人びとの生きるということとは、じつはそれぞれの手製の神話を生き、同時に、それにいつそう手前勝手な強固さをあたえて行くその過程ではないのか。

「兄さんも、あんがいカッコよかったのねえ、とうてい同じ人だとは思えないわ」

フィルムの中で、白い赤ん坊の帽子をかぶったまま、しじゅう子猿然と母の胸にかじりついていた末の妹がいった。

「ほくもそう思っていたところさ」

私は懺然^{ふぜん}として答えた。と、叔父がいった。

「そうかねえ、いまとひとつも変ってはいないとぼくは思うけどね。あの怒ったような顔で海に石を投げているところなんて、いまとぜんぜん変らない顔じゃないか。いたずらでねえ、とにかくこの人は。それだっていまとちつとも変ってない」

私はびっくりした。私はよくこの叔父の相談にのったり、揉めごとの後始末をさせられたりしてはいるが、彼にいたずらをしたり、彼の前でいたずらをした記憶なんて、まったくない。⑦ いったい、彼はどんな「自分」を生きているのか？ いずれにせよ、私としたら、彼に私が「いたずら」だと思われているのなんて、意外というよりない。

……とにかく、事実そのものには意味がないのだ、とくりかえし私は思った。⑧ 問題は、その人間がどうそれをとらえ、どう所有したかなのだ。その角度、その手つき、その堆積が、一人の人間としての「彼」、そして彼の「自分」をつくりあげる。つまり、彼という人間の神話をつくりあげる。彼は、じつはそこにのみ存在しているので、事実の中には、逆にその彼の影しかない。――

問一 二重傍線部①～⑤と同じ漢字を含むものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1 ① シンセン魚 2 センサイな性格

3 センシヨク体 4 センレンされた文章

2 ② ゴウガイが出る 2 外国をゴウユウする

3 質実ゴウケン 4 ゴウガン不遜

3 ③ 急病人をタンカで運ぶ 2 長さのタンイ

3 タンガン書 4 タンスイ湖

4 ④ トホ旅行 2 海外へのトコウ

3 夜光トリヨウ 4 ゼント多難

5 ⑤ シンウ堅固 2 安全ソウチ

3 意気ソウ 4 ソウサ令状

問二 傍線部①はなぜか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6 ⑥ 1 自分の思った自分とはほど遠い姿で写るから

2 自己肯定感が低く、自分の性格が嫌いだから

3 自分の主体が奪われ、対象化させられるから

4 その都度自分とは何かを考えさせられるから

問三 傍線部②における「……」にはどういうことが表現されているか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 ここから視点が移動していくことを示すために文章にリズムの変化を加えている
- 2 ここから映像がドキュメンタリーからフィクションに転じることが示されている
- 3 映し出される映像が徐々に自らの記憶を裏切っていくとまどいが表されている
- 4 映し出される8ミリの古い映像が途切れ途切れである様子が比喩的に示されている

問四 傍線部③「私」と同じものを指しているのはどれか。最も適切なものを波線部㉞㉟から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 ㉞ 私 2 ㉟ 彼 3 ㊲ 私 4 ㊳ 彼

問五 傍線部④には「私」のどういう思いが見受けられるか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

9

- 1 参道のような道では、いたずら好きの私もさすがに神妙な顔つきをしているなあ
- 2 以前に訪れた参道のような道の記憶が、映像を通じてありありと甦ってくるなあ
- 3 自分は参道のような道に以前来たことがあるから、我が物顔で先導していたのだなあ
- 4 参道のような道では自分はカメラから逃げ回っていたはずなのに堂々としているなあ

問六 空欄 10 に入る言葉として最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

10

- 1 秒速で 2 冷酷に 3 大胆にも 4 あたたく

問七 傍線部⑤はなぜか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

11

- 1 叔父のカメラの目に恐怖に近い嫌悪を抱いていた自分の記憶が裏切られたから
- 2 明らかに自分の記憶とは異なる映像へと編集で作り換えた叔父を軽蔑したから
- 3 実際にカメラを向けられると応えてしまう、自らのサービス精神を恥じたから
- 4 カメラに嫌悪感を抱いていたのに、自分の弱さから叔父にすり寄っていたから

問八 傍線部⑥はどういうことか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

12

- 1 幼年時代の「自分」が、いかに映像メディアの誕生によって揺るがされるかということ
- 2 幼年時代に見た映像の記憶とはいかに虚しく、実際の映像とは異なるものかということ
- 3 幼年時代とは、得てしてさまざまな記憶やイメージによって美化されているということ
- 4 幼年時代の「自分」とは、得てして記憶とは食い違う捏造された幻影であるということ

問九 傍線部⑦にはどういう思いが見られるか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

13

- 1 「私」が現在とは好ましく思っていない叔父に、幼い頃は親しきをもっていたことを知り驚いている
- 2 お互いに対して抱いている像が叔父との間で食い違い、「自分」というものが一層捉えがたく思っている
- 3 叔父がこれまで「私」の人間性をまったく取り違えてきたことに、強い抗議の思いを抱いている
- 4 叔父がされたことへの感謝を忘れ、それどころか「自分」本位に被害者面していることにあきれている

問十 傍線部⑧はどういうことか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 人間にとってアイデンティティとは、幼い時には自分のものにできずに成長して他者から取り返すものだということ
- 2 人間にとってアイデンティティとは、大人たちに所有されていたイメージで真の自分とかけ離れたものだということ
- 3 人間にとってその時の出来事は、事実そのものというより過去に耳にしていた神話の記憶の蓄積だということ
- 4 人間にとってその時の出来事は、客観的な事実や真実ではなく主観的に捉えられたフィクションだということ

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は〔二〕の 1 から 8 までとする。

また、この男、いひみいはずみ、ものいひすさぶる人ありけり。さのみものはかなくてありわたる、おのづから年月経にけり。男、音せねば、^①女のもとより、しもつきのついたちの日いひたる、「年はいくとせにかなりぬる」といひたるに、あやしがりて、^②数へければ、三年といふついたちの日にぞありける。

A [※] いにしへのことのたとひのあらたまの年の三年に今日こそはなれ

返し、

B 古りにける年の三年をあらためてわが世のことと^③三千^{みちとせ}年を待て

男、

C 心よりほかにいのちのあらざらば^④三千^{みちとせ}年をのみ待ちは過ぐさじ

といひて、この男、「いと久しきことのたとひに過ぎぬべし。なほ、よそにてだに、いかでものいはむ」とぞいひやりける。女は、「われと人やりてや、よそにてもあふべき。この春夏過ぐることをだに憎し。かつ、^⑤こと[※]にして、秋を」とぞ、いひおこせたりける。男、

あふみちに天の川原をわたれば^⑥やことの契りに秋をたのむる

返し、

秋待てと人をたのむる言の葉は露にうつらぬ色ことにせむ

男、返し、

露うつる紅葉散らずは秋まてといふ言の葉をなにかわびまし

④
女、いかが思ひけむ、あひ語らひにけり。

(『平中物語』による)

※いひみいはずみ……恋文を贈ったり贈らなかつたり

※いにしへのことのたとひ……『伊勢物語』二十四段の、男が三年帰ってこなかつたので別の男と結婚した女が、前の男が帰ってき

たのに会わず、しかしその後男を忘れられずに死んだという話のこと

※よそにて……簾や几帳ごしなどの物越しに会うこと

※われと……自分から

※ことにして……同じことなので

問一 二重傍線部㉗㉘のうち他と異なる人物を指すものとして、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1

- 1 ㉗ いひすさぶる人Ⅱ 2 ㉘ 女のもとより 3 ㉙ 人やりてや 4 ㉚ 女、いかが

問二 破線部㉓㉔のうち意味・用法が異なるものとして、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

- 1 ㉓ 音せねば 2 ㉔ 数へければ 3 ㉕ あらざらば 4 ㉖ わたればや

問三 傍線部①の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3

- 1 長い間断られ続けて会ってくれなかった相手から突然連絡が来たのが意外だったから
2 十一月一日なのに年の初めに聞くような質問をしてきた相手の意図がわからなかったから
3 最初に会ってから三年目だということを最近会っていない相手がなぜか知っていたから
4 連絡を怠っていた相手からつきあいの長さを問うてきた意味がわからなかったから

問四

A～Cの和歌をめぐる状況の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4

1 『伊勢物語』を連想させる手紙で不実を責めてきた女に対して、男は繰り返し会いたいと歌で伝えたが、女は会うつもりはないと突き放している

2 三年間待ち続けたと手紙や歌で非難する女に対して、三年など三千年後に会う約束に比べればなんでもないと男は聞き直り、さすがに女もあきらめることになった

3 『伊勢物語』にたとえた歌を詠んで別れを告げようとする男に対して、女は三千年でも待ちますと答えたが、男は三千年待てるはずはないと相手にしない

4 三年間会えなかったのは辛かったと嘆く男に対して、女は三千年待つくらいの気持ちでいるようにと諭し、男はそれで納得せざるを得なかった

問五

傍線部②の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

1 とても久しぶりに会えたとしてもすぐ時間が過ぎてしまう

2 ずいぶん長く待つことのたとえになってしまうだろう

3 あまり長く待っているとそのうち死んでしまうかもしれない

4 たとえ長く待つにしても度を越えないようにすべきだ

問六 傍線部③の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 物越しの場合だけ対面すべきです
- 2 物越しだったとしても対面しません
- 3 物越しの対面ならいいでしょう
- 4 物越しの対面をしていいでしょうか

問七 傍線部④のように言う理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 ずっと男に会わないと答えていた女が会うことにしたから
- 2 ずっと女に会うように求めていた男が諦めてしまったから
- 3 秋まで待てと言われていた男が待ちきれずに会いに行ったから
- 4 秋まで待てと言っていた女が自分から男に会いに行ったから

問八 本文や『伊勢物語』と同じ歌物語として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 雨月物語
- 2 源氏物語
- 3 平家物語
- 4 大和物語

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は〔三〕の 1 から 8 までとする。

以下は、二〇二二年二月にロシアがウクライナに軍事侵攻を開始した直後に「ウクライナ空軍のエースパイロット「キーウの幽霊」が、開戦から僅か三十時間でロシアの戦闘機を六機撃墜した」という事実無根のデマがSNS上で拡散され、ウクライナ国民やウクライナ支持者の戦意高揚に繋がった事例を手がかりに現代の戦争について論じた文章です。

英雄の捏造^{ねつぞう}のためにウクライナが「表立って」おこなったことはひとつだけだ。ウクライナ国防省がそのTwitterのアカウントで「キーウの幽霊」の噂について述べるさまざまな人びとの投稿を、とくにコメントも付けずただリツイートすること——それだけだった。しかし、その効果は絶大だった。国防省の担当者がこの「噂」を拡散する作業に費やした時間は、おそらく驚くほど短い。しかしこの「噂」の拡散が、西側諸国においてウクライナ支持の世論が開戦直後に急速に醸成されたことに少なからず貢献したことは疑いようがない。それが二十四時間足らずでデマであることが検証されたとしても、その費用対効果はきわめて高かったはずだ。

① 重要なのは、ほんの短い間だけエースパイロットの存在が信じられたことよりもむしろこの「噂」が広く、瞬く間に数多くの人びとにシェアされた事実のほうだった。たとえ捏造されたものであったとしてもそれを多くの人びとが求めていることが可視化されたことにこそ、意味があったのだ。この虚構の英雄の物語は大統領プーチンの専横と彼によって引き起こされた侵略戦争に抵抗するという西側諸国の市民たちの国境を越えた強い連帯が、それも急速に成立しうることを瞬く間に知らしめてしまったのだ。

「キーウの幽霊」の事例は今日における情報の操作が恐ろしいほど低コストでかつ高ベネフィットな戦術であることを、そして情報の発信はそれが事実を伝えることなく、人びとの欲望に応えることにおいて威力を発揮することを私たちに教えてくれる。より正確には人びとが、一人の発信者としてその物語を語る快樂を利用することの有効性を証明している。この

「噂」を広めたのは、国家による大規模なプロパガンダではなく市井の人びとの発信だった。だからこそ、それは国境を越えた民意の可視化として威力を発揮した。人びとはその実在が限りなく疑わしい「キーウの幽霊」について投稿することそのものに、情報を発信することそのものに強い高揚と快感を得ていたはずなのだ。

そしてこの虚構の英雄の存在は彼が実在しないことが瞬時に暴かれたとしても、危機を前にした「私たち」の連帯の高揚と快感を、そしてそれらが発信されることによって増幅することを人びとに十分すぎるほどに確認させたのだ。

この文章が書かれている二〇二四年現在、戦局は膠着^{しやうちやく}して久しい。この膠着は大半の人びとにとって、予想外のものだったはずだ。開戦前「二週間保たない」と評されていたウクライナは、西側諸国の強力な支援を得て首都キーウを中心にもちこたえ、ロシアは戦線を大きく後退させた。そして開戦から最初の一年にあたる二〇二二年の戦局は大きくウクライナ側に傾くことになった。この戦況を生み出したのはウクライナ軍と国民の高い士気と、そしてそれを支える西側諸国の強力な支援であったことはすでに誰もが知っていることだ。そして後者を可能にしているのが西側諸国の親ウクライナ、反ロシアに傾いた国民世論であり、これがウクライナのプロパガンダの成功によって醸成されていたことはもはや疑いようがない。

ウクライナの大統領ゼレンスキーが、喜劇俳優出身であることは広く知られている。彼はテレビ番組の政治風刺ドラマで架空の大統領役を演じ、そのイメージを用いて現実の政治に進出して今日の地位を手に入れた。その選挙は彼が所属する劇団を母体とした政党によって、主演を務めた『国民の僕^{しもべ}』の最新シーズンとして演出された。ゼレンスキーは、少なくとも二〇二二年当時において、情報社会下の民主主義におけるもつとも効果的なプロパガンダの方法を実践してみせた政治家であったはずだ。そのプロパガンダとはかつてのように、英雄の活躍を一方的に発信するものではなく、それを受け取った人びとにボールを預け、シュートをうながすパスであることによってしか成立しない新しいかたちのものだ。クレムリンにスーツで君臨し、陰謀論めいた国民の物語を語るプーチンの旧態依然とした独裁者のイメージをなぞる振る舞いに対し、カメラの前にTシャツ一枚で登場し、ロシアの非道への抵抗と、ウクライナへの人道的な支援を呼びかけるゼレンスキーの「3」は明白だ。そして両者の情報へのアプローチの差こそが、戦局に大きく反映されていたのだ。

そして現在における膠着状況が、西側諸国のウクライナへの関心低下によることもまた、疑いようがない。西側諸国の「ゼレンスキー疲れ」は開戦から半年足らずで指摘されていたが、今日ではそれに加えて二〇二三年十月のハマスのイスラエルに対する大規模テロ、そしてその後のイスラエルによるパレスチナに対する事実上の無差別攻撃が、西側諸国の市民の関心を集め相対的にウクライナへの関心を低下させている。

こうして考えたときウクライナの戦争は、断じて二十世紀への逆行ではない。そこで進行しているのはきわめて、二十世紀的な現象だ。それは表面的には二十世紀型のナショナリズムの衝突のもたらした、かつての正規戦への回帰として現れている。それは残念ながら、この三十年に進行した時代の変化を不可逆なものだと認めたくない人びとの願望が見せている夢にすぎない。「キーウの幽霊」という現象と、ゼレンスキーのプロパガンダ戦略の成功が示すように、これは情報技術に基づいたグローバルなプロパガンダが、それもトップダウンではなくボトムアップに構成されるものをもっとも強い力で状況を決定するきわめて二十世紀的な戦争なのだ。

4

と、楽観主義が現実にとつて代わる。そして最高意思決定の段階では現実なるものはしばしば存在しない。戦争に負けているときは特にそうだ。

これは東京におけるテロをシミュレーションしたある映画のセリフの引用だが、今日においてこの「戦線」という概念は、少なくとも以前のように存在しえなくなっている。二十世紀が後方の生産力が前線の戦力を支える総力戦の時代なら、二十世紀はテロの時代だ。そこがもはやニューヨークやパリの中心街であったとしても、いや、そうであるからこそ戦場に限られることを、すでに人類は経験的に知っている。もはや誰にも「4」ことはできない。なぜならばすでに戦線という概念が解体されつつあるからだ。

そもそもテロリズムとは、相対的に小規模な破壊と殺戮で最大限のプロパガンダをおこなうことを目的とした行為だ。その

ために、敵国の中心部や重要な施設を象徴的に破壊し、その場所で市民を殺害し、恐怖を与える。これによって敵国の人心を刺激し、統治権力を脅かす。その敵国が民主的な制度にのっとっていればいるほど、その効果は高い。テロリストたちは敵国の人びとに破壊と殺戮を報道させることで、自分たちに注目を集め、メッセージを伝える。比喩的に述べれば、彼らは自分たちのYouTubeのチャンネルの登録者数を増やすために、テロをおこなっているのだ（実際に、現代のテロリストたちの多くが、自分たちの団体のプロパガンダとメンバーの勧誘の手段として、YouTubeなどのプラットフォームを用いている）。彼らの非合法的な政治活動にとって情報発信は存在証明とほぼ同義であり、それによる新しいメンバーの獲得（動員）は活動の維持に直結している。そしてここではその情報発信の効果を最大化するものとしてテロが選ばれているのだ。

距離を無効化したアブローチ（攻撃）をおこなうテロとはインターネット的な戦争の形態だ。

二十世紀前半の総力戦、つまり二度の世界大戦のうち、とくに後者は放送（ラジオ）と映像（映画）というふたつの技術の産み出したものと言われる。放送と映像、ふたつの技術は国家による大衆の動員力を飛躍的に増大させ（その先鋭化した形態が、全体主義運動だった）、総力戦を可能にした。続く冷戦下の東西両陣営の相対的な安定を支えたのは、このふたつの技術の融合したテレビだった。そしてその冷戦の終結の原因のひとつが、西側諸国の衛星放送の受信による東側諸国の市民の意識の変化であったことは記憶に新しい。人類にとって、戦争とは常に、情報技術によってその形態を決定されてきたのだ。

そして前線と後方の境界線を破壊したテロの時代を経て、今日の戦争をもっとも強い力で決定しているのがインターネット（SNSのプラットフォーム）上で展開されるプロパガンダとしての情報戦にほかならない。今日のテロリストたちの「攻撃」が、なかばサイバースペース上の彼らの発信の影響力の増大を目的におこなわれていることはすでに指摘したとおりだが、その延長に今日の国家間の「戦争」も存在する。これがウクライナで顕在化した、新しい戦争のかたちなのだ。^④

この新しい戦争のかたちが証明するように、今日の人類社会はインターネット上で、Facebookの、Instagramの、X（Twitter）のプラットフォーム上で展開されているユーザー間の情報発信による相互評価の連鎖と、その結果としての世論形成が支配的な力をもっている。それはいわば、すべてのプレイヤーが参加する相互評価のゲームにほかならない。^⑤今日の情

報環境において、あらゆるユーザーは受信者であると同時に潜在的な発信者だ。そしてこのときユーザーには自己の発信に他のユーザーから反応を得るインセンティブが多かれ少なかれ発生する。つまり誰もが他のユーザーからのリアクションを潜在的に期待している。たとえそれが名もなき1アカウントであつたとしても、いや、名もなき1アカウントだからこそ自分の投稿が不特定多数に評価されることは、一時的にでも強い快楽を与える。そして各プラットフォームは人間が情報発信によるインスタントな承認の中毒に陥っていることを経験的に知っている。そして「Like」や「Repost」というかたちでその承認を可視化することで、より人びとをその快楽の虜にした。そして今日では人類が覚えた新しい麻薬の効果を用いて政治的、経済的な「動員」をおこなうことこそをプロパガンダと、あるいは広報と呼ぶのだ。

(宇野常寛『庭の話』による)

1

問一 傍線部①の理由として最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1 「キーウの幽霊」の情報がインターネットで広く共有された事実は、簡単に偽情報を信じさせることが可能なネット発プロパガンダの費用対効果の高さを証明したから

2 「キーウの幽霊」の情報がインターネットで広く共有された事実は、戦争状態になると英雄の存在を求めてしまう人類共通の欲望のあり方を白日の下に晒したから

3 「キーウの幽霊」の情報がインターネットで広く共有された事実は、当初劣勢と見られたウクライナが、首都キーウを中心に持ちこたえていることを象徴的に示したから

4 「キーウの幽霊」の情報がインターネットで広く共有された事実は、西側諸国の市民が親ウクライナ、反ロシアで国境を越えて連帯できる可能性を可視化したから

問二 傍線部②とはどのような方法か。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

- 1 権力者による上からの発信ではなく、大衆によるボトムアップによって英雄が作られることを誘導する方法
- 2 政治風刺ドラマの大統領役のイメージを利用して大統領になるという、マスメディアの力を活用した方法
- 3 望まれる英雄像を敢えて演じることでインターネット上での影響力を獲得し、それを権力の源にする方法
- 4 大統領選挙を政治ドラマ『国民の僕』として演出するという、空想を現実であるかのように錯覚させる方法

問三 空欄

3

に入る言葉として最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3

- 1 好感度の違い
- 2 演技力の違い
- 3 役者の違い
- 4 人間性の違い

問四 空欄

4

(二ヶ所ある)に入る言葉として最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4

- 1 戦線へと近づく
- 2 戦線から遠のく
- 3 戦線を作り出す
- 4 戦線が軽視される

問五 傍線部③はどうか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

- 1 テロリスト団体のプロパガンダやメンバー勧誘の成功にはYouTubeのチャネル登録者数拡大が必須ということ
- 2 テロリストの目的は自らのメッセージをより広範囲に届けることであり、テロ行為は発信力拡大の手段ということ
- 3 現代のテロリスト団体にとっては、現実世界でのテロ行為よりもYouTubeにおける影響力の方が重要ということ
- 4 テロリスト団体の存在意義と同義である情報発信は、現代では全てインターネットを利用して行われるということ

問六 傍線部④とはどのような戦争のかたちか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 インターネット（SNSのプラットフォーム）上における相互評価のゲームで優位に立ち、自国に有利な世論を可視化、増幅させることが重要な鍵を握る戦争のかたち
- 2 距離を無効化したテロ攻撃を仕掛けて前線と後方の境界線を破壊するとともに、サイバースペース上での発信の影響を増大させる目的で行われる戦争のかたち
- 3 サイバースペース上での発信の影響力を増大させる目的で行われるテロリスト的な攻撃の応酬がエスカレートした延長上に存在する、今日的な国家間戦争のかたち
- 4 相互評価のゲームであるインターネット（SNSのプラットフォーム）上で偽情報によるプロパガンダを仕掛け、民衆に嘘を信じさせる技術が必須となる戦争のかたち

問七 傍線部⑤はどうか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

1 インターネット（SNSのプラットフォーム）の特性上、全てのユーザーは情報の受信のみならず発信も可能である状況に置かれているということ

2 インターネット（SNSのプラットフォーム）上の相互評価のゲームにおける承認獲得に執着する種類のユーザーは、自然と発信者になるということ

3 あらゆるユーザーは最初に受信者として相互評価のゲームに参入しながらも、やがてインスタントな承認の快楽を知って発信者の道を望むということ

4 あらゆるユーザーは情報の受信者である一方、不特定多数から高く評価される発信者になるための潜在的な才能を秘めた存在でもあるということ

問八 本文の主張として最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

1 「キーウの幽霊」を多くの人が信じて疑わなかったことが、西側諸国における反ロシア的世論の拡大に繋がった

2 ウクライナ戦争は二十一世紀型の戦争であり、そこに二十世紀型のナショナリズムの衝突は全く表われていない

3 テロの時代の到来によって、後方で生産を行い前線で戦闘を行うという従来型の「戦線」の概念は古びつつある

4 国家間戦争の形態は常に放送（ラジオ）、映像（映画）及びその技術的融合であるテレビによって決定されている

（以下 余白）